SPECIAL ARTICLE 特集

アルコール依存症とその他の依存

1 アルコールと薬物依存症

Alcohol and drug use disorder

埼玉県立精神医療センター
第2精神科科長

合川 勇三
Yuzo Aikawa

Summary

薬物依存症臨床でしばしば問題となってくるのはアルコールである。英国で行われた調査[1]では，最も危険な薬物はアルコールであるという結果が報告され，アルコールは違法薬物と比べて安全であるとは決していえない。また，アルコールと薬物を併用することで，うつや飲酒運転など，さまざまな問題を引き起こすリスクが高くなってしまう。また断薬をしても，飲酒をすることによってアルコール依存症を併発したり，精神病症状が悪化して入院となる症例も少なくない。酩酊状態のときに，薬物の再使用に至ることも多い。ベンゾジアゼピン系薬剤とアルコールの併用も健忘や呼吸抑制などを引き起こすなど，非常に危険である。依存症臨床では，アルコールを「薬物よりは安全」とは考えず，「薬物と同様に危険である」と認識し，より健康度の高い生活を目指すような治療を行うことが重要である。

Key Words　薬物依存症，アルコール，アルコール使用障害，覚せい剤，ベンゾジアゼピン

はじめに

薬物依存症臨床でしばしば問題となってくるのはアルコールである。アルコールは合法でどこででも手に入り，多くの人が摂取しているため，一般的には安全な飲料というイメージがある。このイメージは薬物使用障害患者にとっても同じである。違法薬物の使用で逮捕され，服役した後などは「薬物は絶対にやらない」と考えていても，「薬物をやらない分，お酒ぐらいはいいだろう」と考えて飲酒をする人は多い。さらに「薬物をやらないために，お酒ぐらいは飲ませておこう」という家族さえいる。しかし，アルコールは最も危険な「ドラッグ」であり，薬物と併用することでさまざまな問題が惹起されるということを認識しておく必要がある。

アルコールは薬物よりも安全か？

違法薬物に関しては一度でも使用すれば違法行為となるため，「適切な使用」，「安全な使用」というものは存在しない。アルコールに関していえば，死亡率でいうとJカーブを示すため，1日1合（純アルコール20g）までなら，比較的安全に使用できる薬物といえるかもしれない[2]。

一方で，アルコールは最も危険な「ドラッグ」であるといえる。英国で行われた調査[1]では，使用者自身，

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.